

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 レビー小体病における横隔神経・横隔膜の病理学的検討

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部 医長 齊藤祐子

【本研究の目的及び意義】

・目的

レビー小体病患者様の横隔神経における α シヌクレインの沈着や横隔膜の障害の程度を評価し、臨床情報と比較することで横隔神経の α シヌクレイン沈着の持つ臨床的及び病理学的な意味付けを明らかにします

・研究の意義

パーキンソン病およびレビー小体型認知症(以下、レビー小体病)は、全年齢で1000人に1人、70歳以上では100人に1人に発症する頻度の高い神経変性疾患です。ふるえ、動作緩慢、筋強剛、姿勢反射障害などの運動症状が広く知られていますが、最近是非運動症状も問題とされています。中でも、呼吸機障害は誤嚥性肺炎などを起こして命に関わる病態ですが、いまだその機序は明らか

かになっていません。

一方、レビー小体病の特徴として、神経細胞内に α シヌクレインの沈着が知られています。呼吸には横隔膜の働きが最も大きく寄与していますが、この横隔膜を支配する横隔神経における α シヌクレイン沈着を評価し、臨床情報と比べることによって、レビー小体病における呼吸機能障害のメカニズムを明らかにするためにこの研究を行います。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2009年4月1日以降、国立精神・神経医療研究センター病院 ブレインバンクでご遺族が患者様の死後脳(剖検脳)の研究使用に関して同意し、NCNPブレインバンクに提供された方のうち、パーキンソン病やレビー小体型認知症と診断された方。

利用する試料・情報等

試料：剖検脳組織（アルツハイマー病、パーキンソン病、健常者のパラフィン包埋脳切片）

情報等：診療録（年齢、性別、診断名など）

研究期間

2018年3月15日より2022年3月31日まで

【共同研究機関】

東京都健康長寿医療センター 研究責任者 村山繁雄 （研究代表者）

2018年3月

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 病院

所属 臨床検査部 病理検査室 氏名 齊藤 祐子

電話番号 042-341-2711 (代表)

e-mail : yukosm@ncnp.go.jp

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail : ml_rinrijimu※ncnp.go.jp (「※」を「@」に変更ください。)